

## 南アジアをクリケットで競う 日本企業

クリケットは、サッカーに次いで世界で2番目に大きいチームスポーツとされていますが、多くの日本人にとってクリケットは今なお馴染みが薄いです。その親戚である野球と類似点がたくさんあるにもかかわらず、また日本での歴史が150年の長きにわたるにもかかわらず、クリケットの日本での人気はとても限定的なものとなっています。

しかし世界規模で観ると、クリケットは、英国、オーストラリア、インド、南アフリカ、西インド諸島などの英連邦諸国を中心に大人気のスポーツです。特にインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュなどの南アジア諸国では圧倒的な人気を誇り、トップ選手の年収は30億円を超えるとも言われています。

クリケットの世界最高峰の大会は、4年に1度開催されるワールドカップです。世界のトッププレイヤーが、10万人規模のスタジアムで、壮大で華やかに試合をします。テレビの視聴者数は十億人をはるかに超えて、単独のスポーツイベントとしてはサッカーに次ぐ

規模となっています。

ここで、簡単にクリケットがどんなスポーツかを紹介しておきます。クリケットはイギリス人によって考案され、紳士のスポーツとよばれています。試合は、2チームが攻撃側と守備側に交互に分かれて戦う対抗形で行われます。各チームは、ボウラーとバッターを含む11人で構成されます。競技場は、ピッチとよばれる長方形部分が中心に配置された楕円形または円形のもので、主な装備は3種類で、バット、ボールおよびスタンプ（3本の棒）です。守備はボールを素手でとります。

ボウラーは野球のピッチャーに似た役割で、相手チームのバッターに対し腕を回してボールを投げます。バッターは、そのボールを打ち、走塁します。スタンプ（3本の棒）が野球のベースに似ていますが、ピッチャーの投げたボールがスタンプを倒せばバッターは即アウトになります。バッターの打ったフライを守備がキャッチすればアウトになるなど、野球の祖先と言われているだけに、類似点はたくさんあります。

日本のクリケット人気に話を戻しますが、日本ではまだまだ人気のあるスポーツとは言えませんけれども、日本企業の多くが日本国外ではそのスポンサーとなっています。より多くの日本企業が、日本国外、特にクリケットが高い経済的価値を持つインドやその周辺国での関与を年々強めています。

例えば、世界のエアコン業界をリードするダイキン工業は、世界最大のクリケットリーグであるインディアンプレミアリーグ（IPL）を構成する8チームの1つに対し主スポンサ



Pic 1: Action between Australia and New Zealand cricket teams



Pic 2: Delhi Dare Devils or DD team member sporting their jersey

ーとして10年以上にわたって貢献しています。他にも、日本の名だたる企業、たとえば三菱重工、シャープ、日本ペイントなどがIPLチームのスポンサーとして名を連ねています。

さらに別の貢献が日産自動車によりなされています。2015年に、この自動車メーカーが、全世界のクリケット競技大会の公式スポンサーとして国際クリケット協議会 (ICC) と8年契約を締結したときには、クリケット界に強烈なインパクトを与えました。この契約により、すべての国際的なクリケット競技会でのトロフィーに日産の名前が付されることになりました。

このように日本企業は、世界で多くの競技人口を持ち急速に発展しつつあるクリケットにおいてブランド力を強化しつつありますが、勢いを増す中国企業との競争もすでに始まっています。

近年、多くの中国企業が爆発的スピードでクリケットのスポンサーになってきています。日本と同様、クリケットは中国では人気のないスポーツであるにもかかわらず、Vivo Electronics、Huawei、Oppoのような中国企業はインドのスポンサーシップへの入札に熱心に取り組んでいます。たとえば、VivoがIPL 2018の権利を獲得しました。また、Oppoが、インディアンクリケットチームの



Pic 3: Nissan sponsored trophy at ICC champions trophy event in 2017

スポンサーシップの独占権を取得しました。

日本と中国のグローバル企業間の競争が、インドを含む南アジアにおいて最も盛んなクリケットというスポーツフィールドでどう展開していくのか。大変興味深いところです。

また、日本企業のクリケット界への貢献が進むにつれ、クリケットへの日本人の関心はどう高まっていくのでしょうか。日本クリケット協会が、クリケットを通じて人や国を近づける懸け橋となるべく活動しています。クリケットのファンの一人として、日本企業の貢献の高まり、日本クリケット協会を中心とした日本国内での活動の発達に伴い、クリケットという素晴らしいスポーツが日本でも広まっていくことに期待したいです。

#### 筆者紹介



#### シティーJ・マルホトラ (Kshitij Malhotra)

Global IP Indiaの創設メンバーで事務所代表です。インドの弁護士&弁理士双方の資格を持ち、特許を含む知的財産関連の法的経験が10年以上あります。専門は化学工学で、デリー弁護士

会所属。首都ニューデリーに住み、英語、ヒンディー語、パンジャブ語が堪能で、日本語に関する基礎知識も有します。趣味は、ドキュメンタリーを観たり、読書したり、詩を書いたりすること。学生時代にはクリケット部員でしたが、今はたしなむ程度で、もっぱら観戦。